

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム 千鳥苑		
所在地	花巻市石鳥谷町大瀬川第8地割1番地1号 (電話) 0198-45-1167		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	2007/10/

## 【情報提供票より】(19年 7月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	54,000 円
敷金	有( 50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	7名 (8名)	男性 2名	女性 5名(6名)
要介護1	2名(3)	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 81.7 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宝陽病院、いしどりや眼科、鎌田歯科クリニック
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人寿水会が運営する認知症対応型グループホームである。場所は石鳥谷駅から西方の葛丸川流域に位置し豊かな自然に恵まれ落ち着いた生活ができる環境下にある。平成18年10月1日に開設された新しいホームである。「和顔愛護」を掲げ、家庭的な環境で安心と尊厳のある生活を目指して介護に取り組まれている。建物は温泉として利用されていた施設を改造されたものであるが広さも充分あり、手すりや段差なども良くできている。畳の間もあり、ソファも充分置かれており一人でもくつろげる場所も確保されている。理念に向けて管理者、従業員が一体になって取り組んでいる姿が見られ、良い感じを受けた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成18年10月の開設であり今回が初めての外部評価である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度は初めての外部評価であり、評価に対する意義の理解は充分ではなかったかと思われるが、介護についての反省を含めて職員皆で自己評価の項目ごとに意見を出し合ったことが充分汲み取れた。今後これを、サービスの質の向上に向けて活かされていくことを望む。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	直近の7月に開催された運営推進会議は大きな意義があったものと思う。推進会議の構成員も様々な分野の方であり、また協議題についても、入居者の状況説明、地域交流のあり方、防災訓練といった大事なことについて熱心に話し合われている。地域の一員として暮らしていることを利用者に理解させることにより安心感が沸き、共に生きている楽しさを実感することが出来ている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	請求書郵送時にホームの状況が報告されている。電話で可能なものは電話で、内容によっては来苑の機会を利用して報告し、共有化に努めている。外部評価時の入居者家族のアンケートを見るとホームでの利用者の生き生きとした暮らしぶりがよく見えてくる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接するケアハウスとの交流が行われており、法人としての利点が活かされている。自治会へも参加し、地域行事にも参加している。地域の一員だという自覚を持つ為の手立ての支援は最も大事なことである。地域から孤立しない介護を、皆が共有し続けていって欲しい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛護」の理念のもと、5項目の目標を掲げ普通の生活ができることを最大の目標としている。利用者、家族、訪問者が見やすい場所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りの時に理念の実践に向けて話し合いや勉強会をしている。理念は誰でもいつでも見られるようにホールの中央に掲示している。	○	毎朝の申し送りやミーティング、勉強会などで唱和し理念について学習することが予定されている。よい「理念」なので唱和する方法もとられれば、より共有されると感じた。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行政区の区長さんが回覧板を届けてくれている。地区の敬老会にも招待を受けている。地元神社の祭典や花巻祭りに行く予定も組まれている。畑からの帰りに近所の人たちが気軽に立ち寄って利用者に話しかけてくれる。	○	ホームの様子を知らせる広報などを地域に配布してホームの理解を広める努力をしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価なので意義が理解されておらず、職員全員でホームを良い方向に持っていくための努力を若い職員の協力で行っている。自己評価表で確認。	○	今回の外部評価は、自分たちでは気づかないところを見つけるための方向付けになることを期待している。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月に運営推進会議がもたれている。地域の各層の有識者に参加をいただきホームの状況や地域とのかかわり、災害防止訓練などが話し合われている。地域との交流を深めるきっかけが構築されたと思う。地域の一員として普通に関わられるような支援作りを模索してほしい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の動向に関して密に連絡を取り合っている。支援センターとは入居者の一覧表を作成して情報の共有をしている。	○	市からの情報がなかなか届かず不足している。ホームの情報を提供する形をとるのも効果が生まれてくると感じられる。法人としては広報も出されているが、ホーム独自の広報等発行して、PRされるのもひとつの方法かと考えられるし、運営推進会議で意見を聞くのも手段と思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来苑時または請求書郵送時などに手紙で利用者の状況やホームの暮らしの様子を報告している。金銭は預かっておらず立て替え金があればその旨を報告し処理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開所以来1件の苦情があったがホーム内で解決されている。法人内に苦情処理委員会があるので報告はされている。千鳥苑からも委員が所属しており法人全体の繋がりは出来ている。受付処理記録で確認。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとにケース担当者と副担当をそれぞれ決めて配置しているので馴染みの関係ができています。もし異動や離職がある場合は半月以上の引継ぎ期間をとって利用者へのダメージを少なくしている		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に2回、法人研修に1回。介護実務研修会、新任研修会、身体拘束に係わる研修会に参加しており、研修の参加状況はわかったが、計画がはっきりしていない。	○	質の向上を期待することからも年間の研修計画を立てて欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県のグループホーム協会と花北ブロックに所属しているが県からの情報が来ず困っている。参加することで得るものは多いので、今後は積極的に参加させる方向で取り組んでいく。	○	ブロックを通じて、県への働きかけを増し、より多くの参加の機会を作って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活歴の聞き出しをして持てる力を掘り出し、自信に繋げる仲立ちをしている。縫い物、大工、農業等、色々得意な事が見えてきたことをアセスメント記録で確認。職員の声かけで、行動の幅が広がった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩としてみると、見方が変わってきた。教えられる機会をつくることによって気持ちが相通ずるようになり生きる喜びを見せてくれるようになっていく。家族に代わっての職員との関係作りが良い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を日常のコミュニケーションや行動の中から把握し、日々のケアに活かしている。持ち物等も家族の理解を得られるように継続して声かけを行っている。	○	菓細工の得意な人などがいるのでそれを活かしていくなど、本人の希望に添うようにあらゆる手立てを講じて見つけ出し取り組む意欲を育てていくことを期待したい。また家族への呼びかけも続けていって欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が記入する連絡ノート(ホーム用)で全職員に周知させている。個人毎の介護計画書で確認をした。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し前の介護計画書と見直し後の介護計画書も見せてもらい見直しされていることが確認できた。見直し後の計画書については家族にも報告し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のケアハウスと合同の行事に参加しデイサービスの利用をしている。温泉の人气が高く入浴を拒否する利用者も次第に減ってきている。思いつき外出は日曜日が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、家族の希望により、ホームの近くの病院へ主治医を変更された利用者もいる。原則は、家族が通院介助をすることとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部家族側より希望がある。現段階では、ホームとしてはターミナルは難しい。ケアハウスの看護師の協力を得て、来年度医療連携を目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関してはホーム内での研修は行っている。他人にわからないように声がけをしたり、カーテンをして見えないようにしたりするなど羞恥心には注意している。またミーティングの時など、聞こえることが心配される場所では個人名は言わないように注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望を満たす努力をしている。急ぐ時等声がかきつくなることがあり、入居者の反応に反省させられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは職員と利用者が一緒に行っている。好きなもの、嫌いなものはアセスメントで確認している。	○	グループホームだから変更が可能なが多くある利点を生かし、好みの物を誕生日に提供する等の計画を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好む人が多い。入浴の基準は毎日行っているバイタルチェックや体調を見て判断している。入浴ができない場合は清拭とか、着替えで対応している。温泉入浴の良さを理解して貰い、入浴を進めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な人、モップ掛けの好きな人、配膳の好きな人、花壇の手入れの好きな人、後片付けの好きな人などがそれぞれ活動しているところを見ることができた。楽しそうにやっていた。持ち味を発揮できる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物の手伝いやホームの周囲の散歩は多くの利用者が日課としている。言葉で言う人もあるだろうし、態度や動きでサインを出している人もあるので、小さなサインも見逃さずに支援を続けてほしい。車による外出は週1～2回希望者のみ支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	改装による建物であるので玄関のセンサーは仕方がない。職員も施錠に対する考え方(施錠しない意味)はしっかりと理解されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ケアハウスと合同で年2回消防署の指導のもとに避難訓練が行われた。また地域の人たちの参加もあり地域に密着した訓練にもなっている。センサーマットの使用により転倒防止の訓練もされた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて、おかゆや、きざみ食も取り入れられている。水分量は一日1,300ccを目標としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にスペースが広く取られておりゆっくりとした感じになっている。浴室やトイレには手すりが取り付けられ広さも充分である。居間、台所、食堂にはところどころにソファが置かれ団欒もできるし、一人にもなれる。畳の間もあり休養もできるようになっている。時計やカレンダー、花瓶、メニューなども置いてあり、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、テレビ、座椅子、ちゃぶ台、衣類をかける台が置かれている。自分の部屋の雰囲気を持たせるための昔使用した器具とか、昔馴染みの筆筒や、愛用した器具といったものが少なく感じられた。またカレンダーや写真等があると、より家庭的感じが味わえ、ゆっくり過ごせる感じがする。	○	家にいるときと同じ感じの部屋になるような支援をして欲しい。継続して家族に馴染みのものの持ち込みを呼びかけて欲しい。